

平成 28 年度 学校経営報告書（自己評価）

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	基本的生 活習慣の 確立	<ul style="list-style-type: none"> 元気にあいさつができる生徒 95%以上 各行事式典において歌詞を見ないで校歌を歌える生徒 前年度比 10%増 	<p>元気にあいさつするように心掛けていると回答した生徒は 88%で概ね目標を達成した。</p> <p>校歌をしっかりと歌っていると回答した生徒は 75%で、教職員の評価も前年度より 20%増加した。</p>	A	更に元気なあいさつができ、誇りを持って校歌を歌える生徒を育てることを目指す。
		<ul style="list-style-type: none"> 遅刻件数、服装チケット指導数、指導件数共に前年度同様の良好な状態を目指す。 	<p>服装・身だしなみ・マナーの向上を心掛けていると回答した生徒は 99%で、指導件数もチケット数も前年度より減少し、目標を達成した。</p>	A	指導を継続し、来年度も良い状態を維持していく。
		<ul style="list-style-type: none"> マナーや規範意識の育成を図る。 ツーロックの日を利用し、自転車の施錠を促す。未施錠の自転車数 前年度比 10%減 交通違反数 前年度比 10%減 	<p>前期・後期初めの全校集会で交通安全を呼び掛けた。交通安全、自転車の施錠を心掛けていると回答した生徒は 97%であり、目標を達成した。</p>	A	「命」にかかわる大事なことなので、来年度も指導を徹底して更に減少させる。
イ	基礎学力の定着と家庭学習の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> 英・数・国の課題の精選と充実努める。学習課題提出率 90%以上 言語活動の充実やアクティブ・ラーニングの導入を図り、授業改善に努める。 言語活動の充実を図る教員の割合 50%以上 アクティブ・ラーニングの導入を図る教員の割合 50%以上 	<p>学習課題の精選と充実努めていると回答した教職員は 95%であった。</p> <p>提出期限を守って課題を提出していると回答した生徒は 97%であった。</p> <p>「産業社会と人間」、「課題研究」で言語活動の充実を図っていると回答した教職員は 81%であった。</p>	A	<p>12月実施の「授業評価アンケート」では、「授業の中で意見を交わして考えを深める時間がある」と回答している生徒が全教科で 55%であった。生徒の評価では、約半分の授業でアクティブ・ラーニング的なことが実施されていることになる。</p> <p>アクティブ・ラーニングの導入推進について進路課、研修課、基礎学力検討委員会と協議して具体的な方策を検討する必要がある。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習に取り組む生徒の割合 75%以上 	<p>家庭学習に取り組んでいると回答した生徒は 65%であった。</p>	B	<p>家庭学習習慣の確立を図るために、スタディ・サプリ(リクルート)が導入されたが、効果はあまりなかった。</p> <p>次年度はベネッセに変更する予定である。生徒の使用推進を組織的に取り組む必要がある。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 朝読書に前向きに取り組んでいる生徒の割合 90%以上 図書館で借りる本 1人年間2冊以上 	<p>朝読書に前向きに取り組んでいると回答した生徒の割合は 97%と良好である。</p> <p>図書館で借りた本は、1人年間平均 2.1冊であった。</p>	A	<p>朝読書重点週間での実態調査を継続し、さらに充実したものにしておく。</p> <p>より多くの生徒、職員が図書館に足を運ぶように工夫をしていく。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 授業に満足している生徒の割合 70%以上 授業評価アンケートを12月に実施する。集計結果を、実施後1か月以内に各教職員に提示する。 	<p>授業に満足していると回答した生徒は 81%であった。</p> <p>授業評価アンケートの集計結果を12月末に教職員に提示した。</p> <p>自分の科目選択に満足していると回答した生徒は 89%であった。</p>	A	<p>生徒の授業への満足度は高い。</p> <p>授業内容の、どのような点に満足しているのか、より詳細に調査する必要がある。</p>
ウ	生徒会活動や部活動の活性化と、行事への主体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭・体育大会・ホームルーム活動に積極的に参加する生徒の割合 85%以上 	<p>すべての活動に積極的に参加していると回答した生徒は 91%で、目標を達成した。</p>	A	<p>来年度も更に良い状態になるよう、継続的に指導する。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率を維持し、実質活動率を向上させる。 指導方法を工夫し、部活動の活性化を図る。県大会出場運動部数 50%以上 	<p>1年次生の運動部加入率が増加した。</p> <p>部活動に積極的に取り組んでいると回答した生徒は 89%であった。</p> <p>各顧問とも指導法等を工夫して活発に活動しており、目標を達成した。</p>	A	<p>各顧問が指導方法等を更に工夫し、生徒が積極的に活動し、より多くの部が県大会へ出場できることを目指す。</p>
エ	キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「産業社会と人間」、「進路探究」の深化を菊川市と連携し小笠型キャリア教育を実現する。 「産業社会と人間」に満足した生徒の割合 80%以上 「進路探究」の内 	<p>菊川市との連携事業として教科横断型課題研究、就職内定者にライフプラン講習を実施した。</p> <p>2年次生対象に、自治体と協力し行われ</p>	B	<p>「産業社会と人間」は、現状の生徒、社会情勢にそぐわない部分も出てきており、来年度に向けて改善に着手した。</p> <p>菊川市との連携協定事業が3年次と2年次にとどま</p>

		<p>容を肯定的に捉えている生徒の割合 80%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年次のインターンシップに積極的に関わるように指導する。就職希望者の80%以上参加 ・「茶文化探究」に満足した生徒の割合 80%以上 ・企業説明会を1年次で実施する。 ・就職希望者への指導を充実させる。一次募集での合格率 70%以上 ・希望進路達成率 80%以上 	<p>たファシリテーション研修にも多くの生徒が参加し、有意義な学びを得ることができた。</p> <p>「産業社会と人間」の授業に満足していると回答した生徒は 83%と目標を達成した。</p> <p>「進路探究」の授業は進路選択する上で役立ったと回答した生徒は 85%であった。</p> <p>2年次のインターンシップの実施については、就職希望者の 54%に止まったが、進学希望者 31 人も実施した。受入企業からも概ねよい評価を得た。</p> <p>「茶文化探究」の授業に満足していると回答した生徒は 92%であった。</p> <p>18 社招聘して、事業内容や求める人材像等の内容で企業説明会を開催した。</p> <p>就職の1次募集合格率は 86%で、希望進路達成率 81%であった。</p>		<p>ったため、より協力し合える内容を検討する必要がある。</p> <p>インターンシップは現状就職希望者を対象としているが、キャリア教育の観点から、2年次全体を対象にすべきかどうかを検討する必要がある。</p> <p>招聘企業の選考と予算面での改善が必要である。</p> <p>就職・進学ともに数値目標は達成したが、生徒個々の理解に努め、生徒によってはより早期に個別指導を行う必要がある。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・訪問企業数 100 社以上 ・招聘企業数 20 社以上 ・招聘上級学校 20 校以上 	<p>訪問企業数 107、招聘企業数 32、招聘上級学校数 22 ですべて目標を達成した。</p>	A	<p>来年度からは数ではなく、連携事業等で質を高める方向に転換していく。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・各年次での進学検討会を1回実施し、進学希望者、特に四年制大学進学希望者への進学指導を継続的に行う。 ・3年次では、進学検討会、推薦事前会議、推薦認定会議を3回実施する。 ・希望進路達成率 80%以上 	<p>進学検討会の開催数は各年次2回、推薦会議は3回開催し、目標を達成した。</p> <p>国公立大学進学者は昨年度を1人上回った。</p> <p>進路希望達成率は、80%であった。</p>	A	<p>進学検討会の本来の目的である、担任の指導力向上等については、やや教員の意識に温度差があり、改善を要する。一方、生徒の進路希望を個別に確認し、教員間で共有することができ、今後の進路指導へ役立てることができた。</p> <p>進路希望達成率は高かったが、進路課としてどの程度まで担任の指導に介入すべきか難しい問題である。</p>

					また、国公立大学進学希望者には早期の指導の必要である。
オ	安全で快適な学校生活の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルの見直し改善を図り、本校の実状に即した体制整備を行う。 ・防災倉庫の整備を行い、備品を充実させる。 ・地域防災訓練へ積極的に参加する環境作りに努め、生徒・職員への啓蒙活動を行う。 ・地域防災参加率 90%以上 	<p>危機管理マニュアルの見直しを行い、危機管理体制の整備を行った。</p> <p>防災倉庫の点検を実施した。</p> <p>地域防災訓練の参加率は 77%で目標には届かなかった。</p>	B	<p>危機管理マニュアルの見直し・改善を毎年行う。</p> <p>引き続き、防災倉庫の点検を行い、備品の補充を図る。</p> <p>地域防災訓練への参加の呼び掛けを行ったが参加率は目標の 90%には届かなかった。今後も防災意識をより一層高めるための工夫が必要である。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・全員に関係する校外研修の還元と校内研修の参加率を高める。 ・各関係機関から提供された資料を全職員に提示し、広報に努める。 	<p>校内研修を 2 回実施した。1 回目はスタディサプリの活用方法について、2 回目は生徒との人間関係づくりについて研修を行った。</p>	B	<p>日ごろの教育活動に直結した研修であり、全教員に資するべき点が多かった。参加率も昨年より向上した。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・相談室職員・養護教諭・カウンセラー・担任・年次との連携を図り、様々な問題を抱えている生徒を早期に把握し、全体でサポートする体制を作る。 ・学校生活に満足している生徒 85%以上 	<p>相談室職員と担任・スクールカウンセラー・養護教諭との連携をしっかりと取り 生徒へのサポートを早期にかつ的確に行うことができた。</p> <p>カウンセリングを受けている生徒は最後まで継続することができた。</p> <p>学校生活に満足していると回答した生徒の割合は 88%であった。</p>	A	<p>次年度も適切で迅速な対応に努める。</p> <p>学校生活だけでなく、家庭の問題が関係することが多く見られるので、家庭との連携をより深めていく。</p> <p>学校生活への生徒の満足度 90%以上を目標にする。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの処理量の削減 前年度比 5%減 	<p>可燃物は 11%の増、資源物は 16%の減で合計では 6.6%の増となった。</p>	B	<p>美化委員会を中心に、分別は少しずつ改善されたが、引き続きごみの減量化を呼び掛けていく。</p>
カ	保護者との連携及び地域への教育情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA指導者研修会への積極的な参加を図る。 ・地区割りの見直しを図る。 ・地区会の参加率 前年度比 10%増 	<p>PTA指導者研修会は多くの参加が得られた。</p> <p>地区割りの見直しを行った。</p> <p>地区会の参加率は 75%であった。</p>	B	<p>PTA指導者研修会は協力が得られ有意義な研修会となった。</p> <p>地区会の参加率の向上は、目標に達することができなかったが、次年度も多くの参加を促していく。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・献血延べ実施率 前年度比5%増 ・地域防災参加率90%以上 	<p>献血実施者は、今年度150人、昨年度より1人増であり5%増とはならなかった。</p>	B	<p>引き続き、献血への呼び掛けを積極的に行う。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや年次通信を利用し、外部、保護者に情報を提供する。 ・中学生に対して、体験入学時、オープンスクール等を利用して学校の理解を図る。 ・学校紹介DVDの内容の更新を検討する。 ・地域向け学校広報物を年4回発行する。 	<p>年間を通じてホームページを更新し、タイムリーな情報発信に努めた。</p> <p>オープンスクール参加者の満足度は94%であった。</p>	A	<p>ホームページの内容の更なる改善を進める。</p> <p>良い点を残しながら、体験入学、オープンスクールの実施方法等について改善する。</p> <p>学校紹介DVDの更新は検討を継続する。</p>
キ	教育資産の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な教室配置を行う。 ・ICT機器の整備を行い、研修課と連携して、ICT教育に関する校内研修を実施する。 ・図書館資料の整備を行い、効果的な活用を図る。 	<p>ICT機器の活用を心掛けていると回答して教職員は54%で、前年度より13%増加した。</p> <p>スタディサプリ活用方法についての研修を実施した。</p> <p>授業で図書館を活用した回数は約80回であった。</p>	B	<p>ICT教育に関する研修は実施しなかったが、機器の活用を心掛けている教職員は昨年度に比べて増えている。教職員が相互に情報提供することで、機器の活用が推進されている。</p> <p>ICT機器も整備されつつあるが、プロジェクタとスクリーンの数を増やす必要がある。</p> <p>授業で図書館を活用できるよう、資料や機材を充実させる。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・厳しい予算の中で教育活動に支障がないよう一層の節約と見直しを行う。 	<p>夏季における電力使用量は前年比3%の節約が図られた。</p>	B	<p>予算の縮減に対応できるよう節約意識の定着を図るとともに、各事業費の見直しも行き、より効果的な教育活動予算の確保に努める。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の補修等は迅速に対応し、県教委への予算要求も積極的に行う。 	<p>毎月施設点検を実施し、危険個所の把握に努めた。</p>	B	<p>経年劣化により、増加する修繕必要個所の改善実現に向け、積極的な予算確保に努める。</p>